

神楽坂で特産品を販売

ふるさとネットが青空フェスタに参加



賑わうふるさとネットのテント くさやの試食が人気

ふるさとネットは、10月5日に行われた神楽坂青空フェスタで明日葉など島の特産品を販売した。会場には多くの人が集まり、品物は完売。島の現状を伝えるよい機会にもなった。

明日葉をはじめ三宅の特産品の販売、写真展示や新報の配布によるネットの広報活動が10月5日、第50回神楽坂青空フェスタにて行われた。青空フェスタは、神楽坂商店街が行っているイ

三宅島新報

隔月発行

発行所：三宅島ふるさと
再生ネットワーク
〒100-1101
東京都三宅島三宅村神着 320-2
Tel. 090-4922-0798
発行人：会長 佐藤就之

事務局便り

○被災地神戸との交流
「1・17 希望の灯」訪問
2009年1月16日～18日
神戸出身で世話人の京町さんにご協力頂き、神戸・三宮で毎年開催されている追悼行事に、ふるさとネットが参加します。

○第14回世話人会
来年1月下旬に開催。詳細は追って連絡致します。

○ご寄付のお願い
みなさまのご協力ありがとうございます。

郵便振替口座

口座番号：00120-3-545036

口座名称：三宅島ふるさと
再生ネットワーク

事務局：あすなる保育園内

郵便番号：173-0005

住所：板橋区仲宿 25-6

電話・FAX 03(3963)5697

担当 伊藤奈穂子

1月31日に新年の集い

板橋「いの家」で

「帰島4周年在京・高濃度地区島民支援の集い」
日時：09年1月31日(土)
午後2時～4時
会場：板橋区立仲宿「いの家」(予定・都

本ントで、同商店街の店などがワゴンセールを行う。当日も多くの買い物客で賑わった。
ふるさとネットが準備したのは、70枚のくさや、86把の明日葉、50箱の牛乳せんべい、39袋のさといも。同日午後6時までには完売した。販売はネットの協力者が行ったが、商品の説明をするために、在島者の光安千久子さん(74)や酒井副会

長(65)も参加した。物産店に来た人の中には「三宅島に行ったことがある」、「三宅島出身の友達がいる」などと話す人がいた。買い物客は光安さんに明日葉の調理方法、島での生活について聞くなどしながら、楽しく買い物をしていった。次回のフェスタは、来年5月。ふるさとネットが参加するかどうかは、今後検討される。

営三田線板橋区役所前駅から徒歩10分)島民のみなさんの励みになるような企画を立てるとともに、在京・高濃度地区島民アンケートの結果報告、島民の訴えなど島の問題を多くの人に伝えます。みなさま是非ご参加ください。

ご寄付のお礼

新報を読んで下さっている沢山の方々からご寄付を頂き、誠にありがとうございました。心から御礼申し上げます。

(8月21日～10月13日)

佐藤宗ノ子様、横山美紀様、高橋栄一様、横井和之様、井上敦子様、小川恵美様、青谷知己様、加藤賢治様、T様、福士敬子様、金沢利夫様、浅井昇様、荻野和子様、板橋和夫様、匿名希望様、中村俊江様、赤羽敏衛様、佐藤就之様、笹井美奈子様、伊藤奈穂子様、中村徹様、松井宗廣様、久保田賢子様、坂下良子様、S様、飯田俊様。
ありがとうございます。今後も活動を充実させるために努力いたします。

会長時評

高濃度地区問題の早期解決を！

「規制条例撤廃」など3つのスローガンを提起

未だに解決しない高濃度地区の問題。住民は大きな不安の中での生活を強いられている。そんな中、村の顧問弁護士が高濃度地区の住民などについて「避難中」との見解を示した。私はこれを機に、新たなスローガンを掲げ、問題解決の努力を、各方面に呼びかけることにした。

説明会で「避難中」と確認
「専門家による火山ガスに関する住民説明会」が、9月6日の午後7時から三宅村公民館で開かれた。高濃度地区住民の意見は、家屋の崩壊、住居禁止のために財産は無価値となり、火災・地震保険もかけられないため、いつ火災が起きるか不安。



専門家による火山ガスの説明会（9月6日）

在京者に嬉しいニュース

生活に関する相談等を弁護士が

在京者の皆さまに、嬉しいニュースをお届けします。
○8月24日のあじさいの里の「福祉まつり」でNPO司法過疎サポートネットワークの方から声をかけられ、9月27日の世話人会に小海憲明弁護士のご出席をいただきました。弁護士さんの話によると島では、土地や家屋の名義を何代か前のままにしておくケースがあり、今の法律では親、兄弟、子どもにまで権利が及ぶために連絡が取れずに「死に土地」に、また土地の境も植木が多く倒

生業も禁止され生活の手段が奪われている。家族や親族の間で財産問題も発生している。条例や保険もかけられないなどの事前説明もないのはおかしい。専門家と島民でガスに対する認識に大きなズレがある。専門家は事実をよく見て生活を考え、ほしいと要望し条例の撤廃を求めた。質疑では、帰島条件として条例が設けられ高濃度地区の人が犠牲となっていること。2000年噴火災害は終了したなど馬鹿げた責任逃れの行政判断に対して、村の顧問

村は公約の実現を

私は、このような経過から次のスローガンを提起したい。
◎全島民の力で、高濃度地区の「ガス条例崩壊」を食い止めよう！
◎「ガス条例」の居住・生業規制条項を即時撤廃せよ！
◎村は、住民参加で高濃度地区の生活・地域再

弁護士から高濃度地区住民と帰りたくても帰れない在京島民は現在も「避難中にあたる」との見解が示され、救済策の必要性の根拠ができた。

れたり枯れたため不明となるそうです。心配事は何でも相談に応じるそうです。電話03(5919)3530。マザーシップ法律事務所・折込参照
○「2000年三宅島噴火・避難一子供たちの記録」元都立三宅高校校長松尾俊一先生が贈呈。（郁朋社・1500円＋税）先生たちの苦勞を忘れないためにもぜひ一読を。有難うございました。

建支援策をつくれ！

村は、帰島前の平成17年1月5日「避難指示解除の予定について」で、「居住禁止などの規制を受けることとなる高濃度地区の住民の皆様に対する施策は、今後とも住民の皆様のご意見、ご要望を踏まえて取り組んでいきます」とある。

これまでの平野村政はこの点では公約違反だ。国の基準、しかも平均値だけに捉われ現場経験を軽視する「専門バカ」的判断に頼らず、公約に基づき被災住民の意見で生活と財産を守るべきだ。

モーターサイクルフェスティバル 10月17日から 都知事が驚きの発言

10月17日から行われたモーターサイクルフェスティバル。復興の起爆剤になることが期待されているが、参加台数は昨年を下回った。そんな中、石原都知事からは、開会式で驚きの発言が飛び出した。



「チャレンジ三宅島08モーターサイクルフェスティバル」が、10月17日、18日、19日の三日間開催された。初日の17日は、

13時に阿古メイン会場をスタートした。主催者の開会宣言の後、石原慎太郎都知事が挨拶したが、その内容に

及川先生の健康講座 「現状と課題」の中間報告を

及川先生たちの「健康講座」は9月3日、第8回目を神着老人福祉会館で35人の参加で開催。昨年夏から島内各地で講座とアンケートを行っ

てきたがその中間集約として「これまでの経過を通しての健康に関する現状と課題」のテーマで報告がなされた。各地の被災地では、被

災者がばらばらになる例も多々あるが、三宅島には近所づきあい、深まっているなどの特徴がみられていることを報告。さらに調査を拡大するために島民に調査を依頼された。皆さまのご協力をお願いします。

浅沼氏追悼集会 300人が参加



浅沼稲次郎追悼集会で発言する野中氏

浅沼稲次郎追悼集会は、10月10日、総評会館で300人を集めて開催。パネラーとして参加した土井たか子氏、元官房長官野中広務氏、テレビ朝日などで活躍する大谷昭宏氏などが憲法について論戦。佐藤就之会長も浅沼氏の功績と三宅島の噴火災害の現状と経験から今世紀の国家戦略として自然災害対策に取り組むべきだと発言した。

会場の参加者は少なからず驚かされた。知事は会場を見て、「案内人がいない。二度三度目には、島外からも参加者が増えるはずだが都の事務局の話だとメーカーのホンダが妨害していて参加、協力した業界メディアには広告も出さないとやったため記者は一人も来ていない。この小さな島の復興に努力をしているのに、許さない。抗議をしたらホンダは否定をした。来年もイベントを回す石原都知事」

産業支援策など検証を

このイベントは、三宅島の復興の起爆剤として期待されている。

石原知事の発言であれば、なおさらである。財政基盤の脆弱な村は、藁にも縋る思いで、島民は「都がなにもやらないより、何か(支援策)をやっ

てもらいたい」との心境であるが、しかし事は税金であり危険性が伴う。当然、協力関係に精査と意見は出る。費用対効果は、島民に必要且つ切実な生活・産業支援策などは真摯な検証と議論を政治的立場を越えてしてほしい。八丈島の地方紙「南海タイムス」の観光再構築の特集は注目に価する。(2月15日号)交通事情の悪い離島では、「特に短期型のイベントは誘致効果が期待できません。旅行代理店も『いい商売にはならない』と言っています」

【お便り】

寄付者のみなさまからもお便りを頂きました。

・継続は力なり、佐藤様感謝しております。いつも励まされています。(神着 赤羽敏衛様)

・粘り強く活動されること期待しております。いつも三宅島のことは気がかかっています。(川口市 松井宗廣様)

・新報を見せて頂き厳しい現実を知り、佐藤さんが島民のために頑張っている姿を懐かしく思い浮かべております。みなさまの御健康を祈念致します。(長野県 小原武弘様)

・新報を拝読させて頂いているうちにふとあの三宅島の美味しい味噌汁の味がおってきました。三宅島は私にも本当に近い存在だったと気づきました。ほんのささやかですが、私の気持ちを同封させて頂きます。あの美味しい味噌汁を造る人達で溢れる島になるための「つめのあか」にもなりませんがお許し下さい。(板橋区 坂下良子様)

在京者支援

「ふれあいコール」実施へ
高濃度地区住民も含めたアンケートを実施

未帰島者の訪問活動を行うふるさとネットのメンバー

島を離れ、都営住宅などで暮らす在京島民の訪問活動を新たな体制で行うための「ふれあいコール」の準備が進められている。それとともに、状況確認のため、高濃度地区住民も含めてアンケート調査を実施することも決定した。

9月27日、第13回世話人会で在京島民の方々の訪問活動、ふれあいコールについて協議が行

われた。現在、ネットでは在京者の現状を把握し、個々に合った支援を継続す

1月に記者会見を計画
在京および高濃度地区の住民の意見をまとめ、問題解決の一助とするためのアンケートを世話人会で決め、世話人である干川剛史大妻女子大学教授の協力のもと、行われることになった。
11月17日から発送、12

10月15日にはふれあいコールのメンバーが打ち合わせを行った。

鶴吉さんのチャリティーショー

豪華メンバーで15日に



舞踊家の鶴吉さん

前号でも紹介した舞踊家の鶴吉さんが企画し、11月15日(土)の16時30分から大田区民ホールアプリコ小ホール(JR蒲田駅から徒歩3分/京急蒲田駅から徒歩7分)で行われる三宅島

月15日までの返信で回収後は干川先生が集計・分析し、来年1月20日には記者会見、1月31日の帰島4周年の集いで結果を発表する予定。ご高齢の方も多いた

帰島支援チャリティーイベント「がんばれ三宅島」(参加無料)の詳細が決定した。ショーには、新内の富士松魯太夫、お面踊りの成田家笑仙さん、KOKORO、落語家の春風亭美由紀さん、キングレコードの安藤聖子さん、よさこいソーランチーム孔雀連、あすなろ保育園の保育士のみなさん、朗読等をする女優の京町さんも出演。楽しいステージをご覧下さい。

め、ネットの訪問員が直接伺いお話を聞きすることもあります。アンケートへのご協力を、よろしくお願い致します。

編集後記

私たちも、1面に掲載した神楽坂の青空フェスタで、三宅島の物産品の販売をお手伝いさせて頂きました。買いに来てくれた人の中には、三宅島のことを

知っている方が多く、「自然の豊かな島にまた行きたい」などという話が聞かれました。早く、島の高濃度地区問題などが解決して、多くの観光客で賑わうようになってほしいと感じました。(DTPA一同)

新報に関する意見を事務局までお寄せください。

この新聞は、向上高校新聞委員会の卒業生がつくる「DTPA」が編集作業を担当し、大妻女子大学人間関係学部干川研究室が印刷に協力しています。